

# 医師は、個人的に放射線をどう捉え、どう対処しているのか

## ～関東1都6県の医師アンケートより

日経ビジネスオンライン 2011/08/02

中野恵子

医師も「放射能が自己の家族に健康影響及ぼす不安」を持っており、食品も産地を選ぶなどしている——。こんな調査結果を、病院検索サイトや医療情報サイトを運営するQLife(キューライフ、東京都世田谷区)がまとめた。

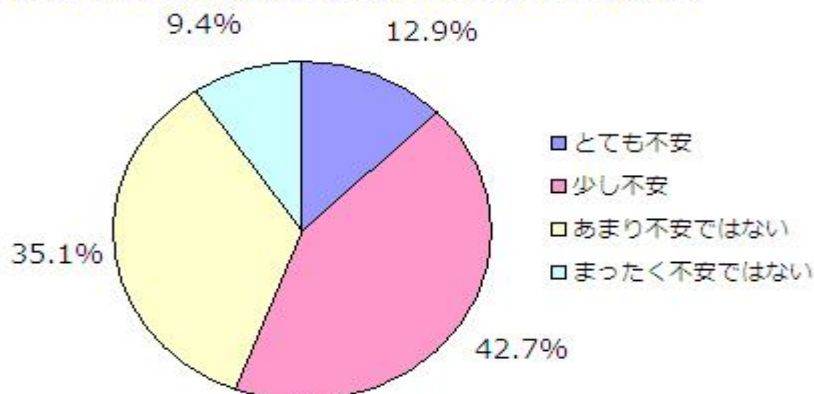
調査は、関東1都6県(東京、神奈川、千葉、埼玉、栃木、群馬、茨城)の医師342人を対象に、2011年7月12日～19日、インターネットで実施したもの。

まず、「自分の地域における、屋外の放射線量(具体的な数値)を把握しているか」との問いには、「変動を時々チェックしている」(26.0%)、「変動チェックはしていないが、おおむね知っている」(33.6%)と、6割の医師が把握しており、中でも福島に近い茨城、栃木の医師は約8割が把握していた。

「自分の家族に、原発からの放射性物質に関する健康上の影響が及ぶ不安を感じるか」という質問に対しては、「とても不安」(12.9%)、「少し不安」(42.7%)という結果で、不安ではないとした人は、「あまり不安ではない」(35.1%)、「まったく不安ではない」(9.4%)と4割にとどまった。

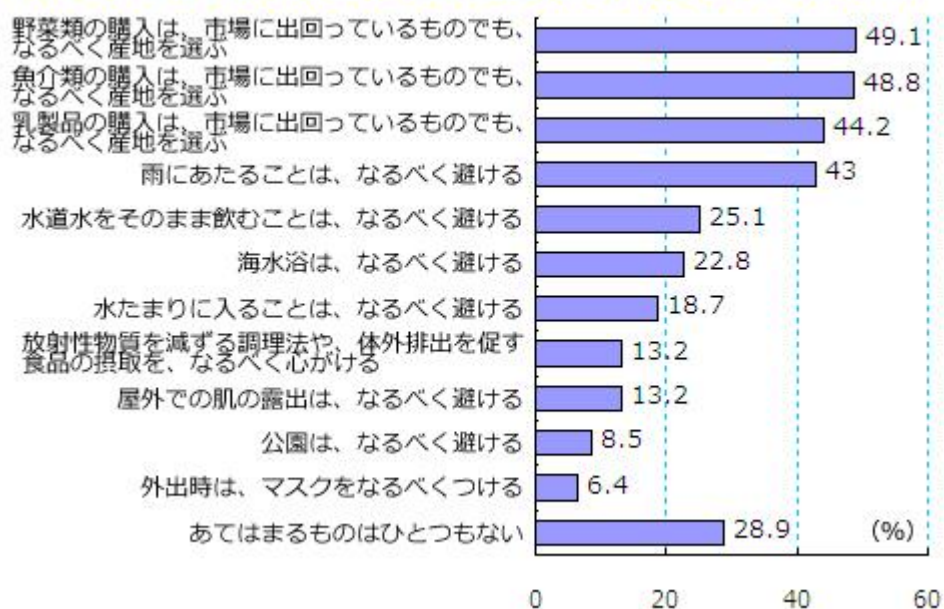
家族に「外部/内部被ばくによる健康被害(またはそれを不安に思うこと)」に関して「具体的な注意を与えている」という医師は41.2%。具体的な注意の内容としては、「食品産地(例:原発近傍の魚介類は避ける)」(注意を与えている人のうち27.7%)、「雨水(例:雨に濡れない)」(19.9%)、「水の選択(例:水道水・生水を飲まない)」(18.4%)がトップ3だった。

「放射能が自分の家族に健康影響及ぼす」不安があるか



医師自身が、「被ばく可能性」を考えて注意していることとしては、次のようなものが挙げられた。トップは、「野菜類の購入は、市場に出回っているものでも、なるべく産地を選ぶ」(49.1%)。僅差で「魚介類の購入は、市場に出回っているものでも、なるべく産地を選ぶ」(48.8%)が続き、以下「乳製品の購入は、市場に出回っているものでも、なるべく産地を選ぶ」(44.2%)、「雨にあたることは、なるべく避ける」(43.0%)、「水道水をそのまま飲むことは、なるべく避ける」(25.1%)と続いた。特に注意していることはないとしたのは、28.9%だった。

#### 「被ばく可能性」を考えて、ご自身が注意していることは？（複数回答）



一方で、「地域での日常生活において、放射線への関心が低過ぎる人、神経質になり過ぎている人、どちらの人が多いか」と聞いたところ、「神経質になり過ぎている人が多い」と感じている医師が 52.6%と過半数に上った。